

私たちが考える『甲府の未来』
市民ワークショップ

《提言書》

平成27年2月22日
市民ワークショップ

〈 目 次 〉

ワークショップの開催経過及び参加者名簿	1
『発展・交流』グループからの提言	3
『活力・賑わい』グループからの提言	11
『歴史・文化』グループからの提言	19
『自然・環境』グループからの提言	25

ワークショップの開催経過及び参加者名簿

1 開催経過

- ◇第1回 平成26年10月19日(日) 13時～16時
- ◇第2回 平成26年11月16日(日) 13時～16時
- ◇第3回 平成26年12月21日(日) 13時～16時
- ◇第4回 平成27年 1月18日(日) 13時～16時
- ◇第5回 平成27年 2月22日(日) 13時30分～16時30分

※場所はいずれも本庁舎6階大会議室

2 参加者名簿(敬称略・50音順)

◇《発展・交流グループ》

入倉和也	岡村麻呂	金子治子	川村 丈	斉藤杉太郎	
田中恵子	時田順子	中山貴英	長尾雅則	丸山美恵	山下大智

◇《活力・賑わいグループ》

青木高広	浅原孝嘉	飯島正敏	市村ひろみ	桐山和幸	
功刀将長	五味典子	神宮寺裕子	広瀬仁美		

◇《歴史・文化グループ》

淡路美佐子	小畑茂雄	窪川理英	田中克男	中田一正	
中村寛	名取貴大	二宮直樹	森井大輔	山口正仁	

◇《自然・環境グループ》

内田利江菜	小倉香苗	名取竜太	永坂広信	西嶋慎治	
沼津秀年	森本美嘉	吉田美穂			

『発展・交流』グループからの提言

私たちからの提言

ふるさと（田舎）の暮らしやすさと、都市の便利さを活かして
住むに良いまち・訪れるに良いまち甲府市をつくろう！

【私たちの想い】

- 私たちの甲府市は、南アルプスやハケ岳、奥秩父や御坂の山々、そして富士山という美しい山岳景観や、笛吹川や荒川といった川の流れが生み出す自然景観など、自然と空間の広がり的魅力で気候も良く、コミュニティの温かさも残る暮らしやすいまちです。
- また、甲府市は、首都・東京から100キロ圏、山梨県のほぼ中央に位置し、新宿まで特急でおよそ90分で結ばれた、山梨県の県庁所在地です。この東京からの近接性、県都としての拠点性や山梨県の玄関口としての機能が、都市としての便利さを生み出しており、このことも甲府市の大きな魅力となっています。
- 今、甲府市は、若い年代層の流出などによって人口が減少しつつあります。ですが、この「豊かで雄大な自然景観」「気候の良さ」→住みやすさと、「東京からの近さ」「県都としての拠点性」→都市としての便利さの両方を併せ持つことは、他にはない甲府市の大きな強みだと考えます。さらに、リニア中央新幹線の整備がいよいよ開始されたことを踏まえると、甲府市は「伸びしろが大きい！」まちだと考えられ、次ページに掲げるような“強み”を活かして、これからの発展に向けた取り組みを進めていくべきと考えます。

【甲府市の“強み”関連イメージ写真】



愛宕山からの夜景（出典：甲府市 HP）



リニア中央新幹線（出典：山梨県 HP）



家族の暮らし（出典：甲府市 HP）



市役所からの眺望（出典：山梨県 HP）

＜甲府市の強み＞

1) 便利さ

☆東京からの近さ、県都としての拠点性は、生活する上でも大きな強み

- ・都会の便利さがあるが、都会過ぎず親しみやすい
- ・交通網が単純な構造でわかりやすい

2) 自然の豊かさ

☆南アルプス、ハヶ岳などの山岳景観、盆地という空間の広がり甲府市ならではの

- ・水が美味しい（ミネラルウォーター）
- ・都市に近い農地（農地景観）
- ・夜景が美しい（自然プラス都市の景観は甲府市ならではの）、天体観測なども魅力

3) 気候の良さ

☆（昨年は雪害に見舞われたが）基本的に晴れの日が多く、北関東や信越地方より温暖

- ・晴天の日が多く、空気がきれい
- ・災害が少ない（地震・台風）

4) 健康づくり・子育て環境の良さ

☆自然が豊かで都市の便利さもあり、気候が良くて、コミュニティの温かさもある・・・

⇒健康の維持や、子育てに適した環境がある

- ・健康を保ちやすい環境がある
- ・小児救急が充実している、女性が安定して働ける環境がある
- ・待機児童ゼロ！（待機児童ゼロの都市は他県にも数多くあるが、この自然環境プラス都心から90分の便利さで待機児童ゼロを実現している点は魅力）
- ・県庁所在地であり、教育機関、医療機関も多い

5) コミュニティが元気で温かい

☆人とふれあう機会の多さが魅力

- ・お年寄りがパワフル
- ・信玄公まつりなど、地域性が強いお祭りがある

6) 住む・働く環境の良さ

☆東京と比較して住宅が得やすく、県内他都市より仕事も得やすい

- ・東京などより地価が安く、マイホームが得やすい
- ・通勤時間が短いことが多く、満員電車に乗らなくていい
- ・市街地の事業所、官公庁、工業団地など、働くところもある

7) 訪れるまちとしての魅力がある

☆東京からの近接性、県都としての拠点性は訪れる上でも大きな強みであり、山梨県の玄関口としての機能が甲府市にはある

- ・（海から遠いことによる）海産物の独特な食文化
- ・地場産業。宝石の研磨や職人技術は甲府ならではの！
- ・甲府駅北口の「夢小路」や、中心市街地での第二土曜市場（さらなる活性化を期待）
- ・昇仙峡の景観はNo.1、日持ちしないので食べにくるしかない「水信玄餅」などの名産品
- ・ヴァンフォーレは東京・神奈川などからの集客力がある（相手サポーターがやってくる）

【甲府市の強みを活かした、発展・交流に関する提言】

テーマ1 甲府市への誇りと愛着を育てよう！

★市民どうしがつながる場をつくる。甲府市への愛を語る場をつくる！

- ・「甲府市の強みを活かした発展・交流」に向け、“まず何が必要か”と考えた時、真っ先に浮かんだのは、市民に「甲府市への誇りと愛着」がなければ、甲府市のまちづくりに関わろうという気にもならないだろうし、他県の人に甲府市を語るができないよね、東京の人に甲府市の魅力を語れないよね、ということでした。
- ・日ごろ暮らしているまちの良さは、普段なかなか気付かないものですし、中には、甲府市のことが大好きでも、“内に秘めて”その愛を語ろうとしない人もいます。これに加え、甲府市には4つの大学があって若者が多く、まちづくりに熱心に取り組んでいるグループもあります。このような人たちの“甲府愛”を育み、例えば大学生が卒業後も甲府に残ってもらえるようになれば、まちの未来は変わってこようかと思います。

＜私たちのアイデア＞

- 1 市民どうしがつながる場づくり
 - ・甲府市への愛を語る場づくり、まちに関わる場づくり、今回のような市民ワークショップの開催
- 2 若者が参画する場づくり
 - ・大学生によるまちづくり活動への継続的支援、参画のきっかけづくり
- 3 子どものころからの“郷育”
 - ・学校教育における、“甲府愛”を育み地域の人たちとつながる機会づくり
- 4 甲府市への誇りと愛着を育てる新しい情報発信
 - ・SNSの活用、動画の配信 など



甲府大好きまつり

(出典：甲府市観光協会 HP)



市内大学生によるまちづくり活動

テーマ2 甲府市をブランド化しよう！

★よそにはない魅力で勝負。体験型をウリにして甲府市をブランド化！

- ・「甲府市の強みを活かした発展・交流」に向け、“東京の人に来てもらうためには、東京の人から見ても魅力的な何かが必要だね”と、グループみんなで話し合いました。
- ・昇仙峡、富士山ほかの山岳景観、盆地の景観、夜景、笛吹川、ほうとう、B1グランプリに輝いた鳥もつ煮、ぶどう、ワイン、甲府城、武田信玄公、リニア中央新幹線・・・いろいろ思いつきますが、それのみで“他市にはない独自の魅力か？”と問われると、考えてしまうのも事実です。
- ・そこで私たちは、“都心から90分の距離で上にあげたものが体験できる”という点が甲府市独自の魅力なのだと考え、体験してもらうことで甲府市の魅力を感じてもらおうと考えました。

<私たちのアイデア>

- 1 体験型観光の充実
 - ・武田二十四将騎馬行列への参加や、ほうとう打ち体験など
 - ・甲府市の山や川を楽しんでもらうプログラムの充実
- 2 食を活かしたまちづくり
 - ・B1グランプリなど食をテーマとしたイベントの誘致
- 3 ブランドイメージの確立
 - ・「発展・交流」という大きな目的達成のためにも、『〇〇のまち・甲府』というブランドイメージの確立が望まれる など



武田二十四将騎馬行列（出典：甲府市 HP）



黒平ほうとう祭り
（出典：甲府市観光協会 HP）

テーマ3 甲府市の新しい目玉をつくろう！

★甲府駅周辺市街地とリニア（仮称）山梨県駅を結び、甲府市を感じられるしかけをつくる！

- ・昨年（2014年）、リニア中央新幹線の工事がいよいよ着工され、2027年には品川・名古屋間の先行運転が開始される運びとなりました。実現すれば、甲府市と東京は約25分で結ばれ、交通利便性が飛躍的に高まることになり、大きな期待が寄せられています。
- ・しかし、リニアの駅ができたところで、“そこで降りる必然”がなければ、リニアの乗客は甲府市を素通りしてしまい、逆に、市民が東京に流出する一方になってしまうでしょう。
- ・このため、“乗客を降ろす”魅力的な核がこれからの甲府市には必要であり、既存の市街地・観光地のほかに、例えば甲府駅周辺市街地とリニア（仮称）山梨県駅を結び、そこで“甲府市にきたと感じられるしかけ”を県や関係市町村と協力してつくり、甲府市の新しい目玉（＝開発特区）とし、重点的に取り組んだらどうかと考えます。

<私たちのアイディア>

1 物理的にまちを結ぶ

- ・甲府駅周辺市街地とリニア（仮称）山梨県駅周辺を、バスやLRTなどの公共交通手段で物理的に結ぶ

2 有機的にまちを結ぶ

- ・甲府市の自然・歴史文化や食やジュエリーなど見どころの紹介、甲府らしい盆地の景観を活かせる沿道づくりなど“甲府市にきたと感じられるしかけ”によって、リニア（仮称）山梨県駅と甲府市内を有機的に結ぶ



テーマ4 住むに良いまち・訪れるに良いまち甲府市をPRしよう！

★良い素材（甲府市の強み）を組み合わせ、多彩な媒体を使ってイメージ発信！

- 仕事の関係は別にしても、人が“住む場所”（観光などで）“訪れる場所”を決めるとき、“その都市のイメージ”が大きくなるをいいます。
- せっかく良い環境を整えても、市外にPRしないのでは勿体ないですし、人に“住む場所・訪れる場所は甲府市”と決めてもらうためにも、これから益々、イメージ戦略が重要になってくると思います。
- このため今後は、既に取り組んでいるシティプロモーションを、市民、大学生などの参画を得ながら充実させていき、住まいを求める人や、魅力的な観光地を求める人などに、多彩な媒体を活用して、積極的に甲府市をPRしていくべきだと考えます。

<私たちのアイディア>

1 観光向けPRプログラムの充実

- 甲府市民にとっては日常でも外から来た人には新鮮な、地元の当り前を『見てもらう・関わってもらう・体験してもらう』プログラムの充実（イチゴ狩り、ほうとう打ち・・・）

2 住まう場を求める人向けPRの充実

- 訪れる人だけでなく、住まう場を求める人にも、気候の良さや土地の安さ、子育てのしやすさなどのメリットをPR

3 シティプロモーションの積極的な展開

- 県や市の東京サテライトオフィスからの情報発信、雑誌・ネット・TVなど民間の媒体を活用したシティプロモーションの積極的な展開

4 ふるさと納税を活用したアピール

- 甲府市出身者のみならず、甲府市を“ふるさと”と感じる人、訪れる人を増やすことにつながるよう、ふるさと納税を活用し、甲府市をアピールする



甲府駅北口の『甲州夢小路』



ヴァンフォーレ甲府の試合風景

（出典：山梨県 HP）

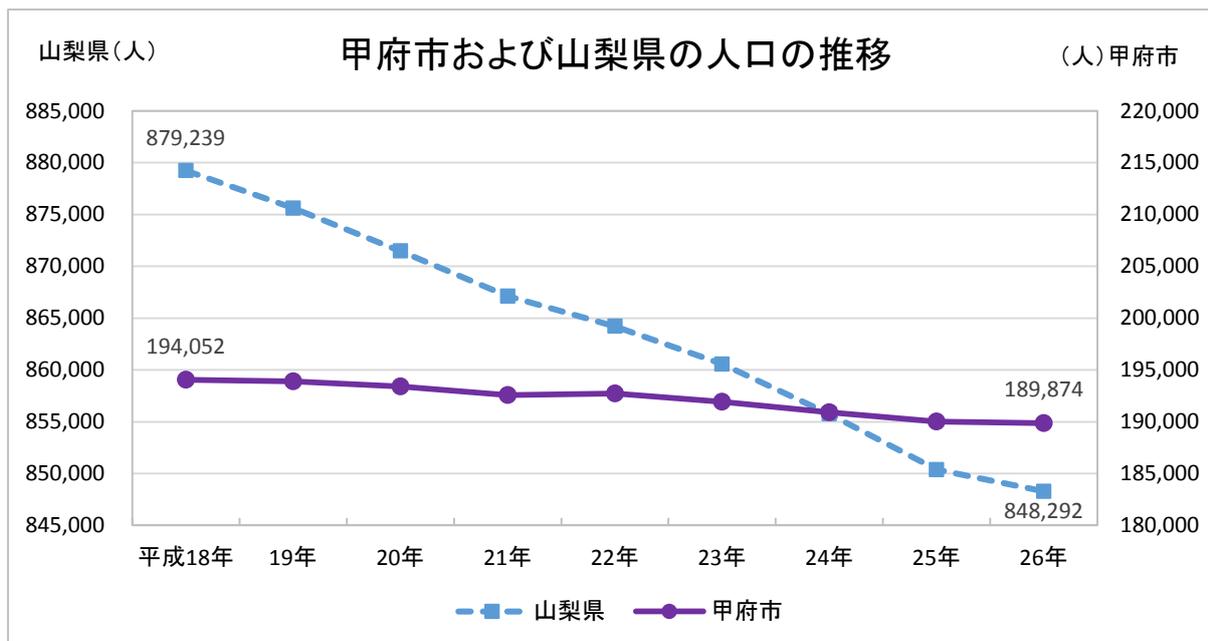
『活力・賑わい』グループからの提言

今あるもの（都市基盤・都市機能）を活かし、
「住みやすい・住みたくなる」甲府市をつくろう！

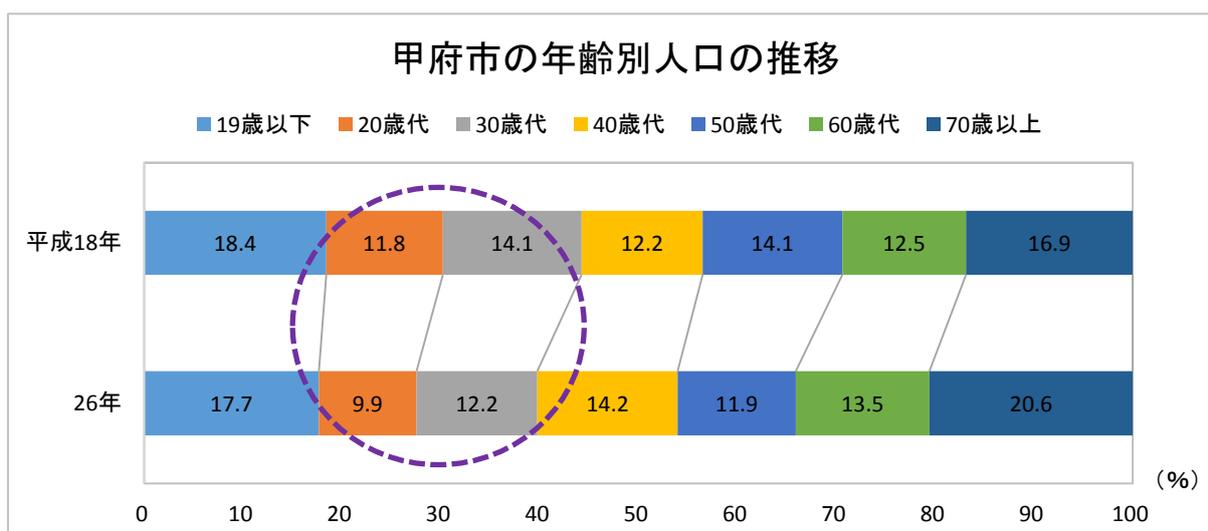
【私たちの想い】

- 私たち活力・賑わいグループには、甲府市出身の人、長年甲府市に住む人、仕事や結婚で引っ越して来た人など、さまざまなメンバーがいます。グループのみんなで話し合う中で共通していたのは、「甲府市の強みが活かされていない」という思いでした。
- 私たちが暮らす甲府市は、山梨県の県庁所在地であり、道路・交通の要衝で、利便性に優れた都市基盤を有し、また、医療・教育・行政などの充実した都市機能を有しています。さらに、災害に強く自然にも恵まれ、時代を超え受け継がれてきた優れた歴史的財産が豊富なまちです。
- このように多くの強みがあるにもかかわらず、甲府市の人口は年々減少の一途を辿っています。私たちは、これは、甲府市に住む人、特に若者世代にとって、このまちに住み続けるメリットが少ないからではないかと考えました。そこで、今ある強みを活かして、甲府市の「住みやすさ・住むことで得られるメリット」を追求し、若者をはじめ市民が、甲府市の未来に希望を持てるようにしたいと考えます。このことは、甲府市の人口増加にもつながると考えます。
- また、山梨県全体で人口減少が進んでいますが、甲府市は県と比べれば、まだ減少率は少ないといえます。そのため、甲府市＝山梨県というイメージを上手に利用し、県都である甲府市がリーダーシップを発揮して、県や近隣自治体と連携することで、甲府市だけでは生み出せない活力・賑わいを創り出していくことができると考えます。
- お金を掛けなくても、何かを犠牲にしなくても、甲府市の財産である今あるものを活かし、今このまちにいる人や、今近隣にいる人と手を携えて取り組めば、「住みやすい・住みたくなる」甲府市をつくることのできる、私たちはそのように信じています。私たちは、他のグループの提言を下支えする「縁の下の力持ち」の心で、今ある強みを活かした、活力・賑わいづくりについて提言します。
- 私たちの提言全体のポイントは次のとおりです。

1. 今あるものを活かし、結びつけて活力につなげる。
2. ハード（都市基盤・都市機能）の強みをソフト（人・組織・アイデア）で活かす。
3. 若者世代の声をもっと集めて活かす。
4. 甲府市がリーダーシップを持ち、山梨県・近隣自治体との連携を強める。



資料：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（総務省）。平成26年は1月1日現在、それ以前は3月31日現在の値で、いずれも外国人を含まない。



資料：同上。

↑若者の人口減少への対応が課題

<甲府市の強み>

- 利便性に優れた都市基盤（道路・交通など）
- 充実した都市機能（医療・教育・行政など）
- 山梨県の中央、交通の要衝に位置している
- 時代を超えて受け継がれてきた優れた歴史的財産（舞鶴城、武田神社など）
- 豊かな自然、恵まれた水資源

⇒都市基盤・都市機能を中心に、甲府市の強みを活かしたい！

【甲府市の強みを活かした、活力・賑わいに関する提言】

テーマ1 道路・交通、景観など都市基盤を活かす

～甲府らしさを活かして新たな活力と賑わいをつくる～

(1) 生活の利便性を向上し、甲府らしさを活かしたまちをつくる

- 甲府市は、山梨県の中央に位置し、道路や鉄道など県内外との交通利便性がよく、甲府駅を中心としたバス路線も充実しています。一方、市内では、道路渋滞や駐車場不足、バス利用の不便さなどの問題が発生しており、私たち市民は、せっかくある道路・交通の都市基盤をもっとうまく活かさないものかと感じています。
- 甲府市中心部およびその周辺では、朝夕の通勤時間帯の渋滞が慢性的に発生しており、これは、南北と比べ、東西の交通網の整備が遅れているためと考えられます。そこで、甲府市を物流の中心に据えて経済活力を向上し、また、市民の生活利便性を向上するためには、東西道路の開通が重要です。
- 市内では、甲府駅を中心として路線バスやシティシャトルバス（レトボン）が運行し、複数の路線がありますが、いざ利用しようとする、路線図が分かりにくい、運行本数が少ない、利用したい路線がない、など不便さを感じます。市民が中心市街地に気軽に集まったり、公共施設を利用しやすくするためには、市内のバス運行や中心市街地の駐車場の見直しが必要です。
- また、甲府市には、富士山と舞鶴城のある風景、城下町の名残ある町並みなど、特有の歴史的背景や歴史的景観がありますが、それらを上手く活かしておらず、もったいないと感じています。そこで、こうした甲府らしさの保全に配慮した上で、都市計画や道路整備にあたっては、歴史等の保全を徹底するものと、都市整備を優先させるものを明確に分類し、生活利便性の向上と甲府らしさの保全とのバランスを図ることが大切です。

<私たちのアイディア>

- 交差点の拡幅と東西交通の早期整備により甲府市中心部の渋滞を解消する。（例：車線減少している交差点の拡幅、山の手通りと国道 20 号の間にある東西の道路網整備に向けた国や県へ働きかけなど）
- 郊外から中心市街地への道路整備を行い、中心市街地への交通利便性の向上を図る。（例：砂田町→甲府駅南口、甲府駅高架化、平和通り完全三車線化、遊亀通り遠光寺北交差点渋滞解消など）
- 既存のバス路線を補完するコミュニティバス（市内循環バス）を運行する。
- 富士山・舞鶴城・武田神社・甲府善光寺などの歴史的景観を乱さずに、人口流入につながるような計画を行政主導で考える。（例：高層建物の建築計画など）

(2) 新たな活力と賑わいをつくる

- 人口減少や少子高齢化が進む甲府市で、これから活力と賑わいを増していくためには、今ある都市基盤を活かしながら、より「住みやすい・住みたくなる」まちをつくり、人口流入を促す必要があります。
- 特に、未来の甲府市を担う若者が「住みやすい・住みたくなる」ような環境を整えることが重要ですが、現在、甲府駅周辺の商業施設は、市民や観光客が買い物や遊びに訪れたいと思えるような魅力的な場所にはなっていないことから、若者にとっても魅力的な新たな賑わいづくりが必要です。
- また、リニア中央新幹線の駅が市内に開業することから、甲府駅とのアクセスを良くして人や物の流れをつくったり、新駅周辺に新たな賑わいの場をつくることも考えられます。
- こうした新たな活力と賑わいづくりにおいては、甲府市だけですべて行おうとせずに、県や近隣自治体と一緒に、山梨県全体で人を呼ぶ方法を考える方が、さらなる効果を期待できると考えます。そのためには、県都・甲府市がリーダーシップをとることが重要で、市の財政基盤の安定化のためにも、県や近隣自治体との連携・協力し、お互いが今あるものを活かし、取り組んでいけばよいと考えます。

<私たちのアイデア>

- 若者が住みやすい・住みたくなる環境をつくる。(例：商業施設や道路網、住環境の整備、働く場の充実など)
- リニア新駅周辺に住宅地や商業施設を整備し、リニア新駅と甲府駅をつなぐ交通網（モノレール、シャトルバスなど）を整備する。(例：長野県佐久平駅の周辺開発)
- 県や近隣自治体と連携・協力し、企業誘致・都市基盤整備を進める。
- 県や近隣自治体に今ある施設などを共用とする。



舞鶴城と富士山（出典：甲府市 HP）

テーマ2 医療、教育・学習、行政など都市機能を活かす

～情報の共有化・見える化を進め、市民参加で住みやすい甲府をつくる～

(1) 充実した都市機能をPR・発信する

- 甲府市は、県立病院や市立病院をはじめ医療機関が多く、また公民館や総合市民会館などの文化・教育施設が多いなど、医療、教育・学習、行政などの都市機能が充実しています。しかし、こうした充実した都市機能が、市民や市外の人にあまり知られていないため、まずは積極的に知らせて、活用を促すとともに、それぞれの利便性を高めることが重要です。
- こうしたさまざまな施設や行政サービスについては、市のHPや広報紙などで情報発信されていますが、現在の住民だけでなく、転勤・進学等により新たに甲府市に転入した住民などにも分かりやすく、使いやすいように工夫していく必要があります。
- さらに、市内だけでなく市外に向けて、「甲府市の住みやすさ」や「甲府市のイメージ」を積極的にアピールすれば、市民は住むメリットを感じることができ、かつ市外から人を呼び、活力・賑わいにもつながると考えます。

<私たちのアイデア>

- 市のHPを感覚的に検索しやすいよう改良する。(例：子育て情報を子どもの年代別にする、多様なキーワードから同一ページにたどり着けるようにする、QRコードを活用して情報にすぐアクセスできるようにする、など)
- 市のHPに、地区別の身近な情報（病院、学校、公共施設など）を盛り込んだMAPを掲載する。
- ゴミ出し、緊急避難対応、救急医療機関や公共交通機関の使用など、行政サービスの使い方をシミュレーションできる機会をつくる。(例：福岡県筑後市「定住シミュレーションBOOK『恋 Live』」、福岡県糸島市「定住促進サイト『糸島暮らし』の生活シミュレーション」など)
- 防災無線の聞こえを良くし、緊急情報メールを活用するなど、情報伝達の体制を整える。
- 「甲府市のイメージ」（待機児童ゼロ、高度医療が充実しているなど）や「甲府市の住みやすさ」を、市民や市外の人に積極的にアピールする。(例：大垣市移住・定住ポータル「大垣暮らしのすすめ」)



大垣暮らしのすすめ（出典：大垣市 HP）

(2) 今ある都市機能や行政サービスをさらに充実する

- 甲府市は、近隣と比べ充実した都市機能を有していますが、うまく活用されず宝の持ち腐れになっている施設があります。例えば、市立動物園（遊亀公園）は日本で4番目にできた歴史ある動物園ですが、利用者が少なく閑散としていてもったいないと感じます。また、市立図書館は従来から課題のバスの利便性の悪さ、駐車場不足のうえに、県立図書館の設立などで利用者がますます減少しています。こうした今ある施設に極力お金をかけずに他の良いところは取り入れるなどして集客力を高め、収益性を上げるための工夫が必要だと考えます。
- また、甲府市は医療・教育などが充実しているとはいえ、例えば、子どもの医療費負担の軽減、発達障害の子どもの受け入れ体制の整備など、さまざまな市民ニーズがあります。こうした市民ニーズをもとに、甲府市の都市機能や行政サービスをより良いものとしていくことが重要です。

<私たちのアイデア>

- 市立動物園の運営体制を見直し、集客力をアップする。（例：第3セクターの活用など）
- 市立図書館への交通利便性を高め、利用しやすくする。（例：コミュニティバスの運行など）
- 子どもなどの医療費助成を充実する。（例：中学生まで医療費無料化、心身障がい者・発達障がい者の窓口無料化の復活など）
- 発達障がいのある子どもの教育体制を整備する。（例：専門の教員の増員など）
- 障がい者や要介護者に対するサービスを充実させ、本人のみならず保護者・介護者の負担を軽減できる環境を整える。

(3) 市民自身が「住みやすい・住みたくなる」まちをつくる

- 甲府市は地域のつながりが強いまちで、自治会では、地域の清掃やイベントなど活発に行われています。しかし、自治会の高齢化が進んでおり、また地域によって活動の濃淡もあるため、今のままでは担い手不足が深刻化し、自治会が機能しなくなるおそれがあります。
- そこで、これまでの自治会やボランティアなどの地域活動に加え、今後は、より多くの市民が自分たちの手で、甲府市の住みやすさを生み出して、それをアピールする活動を展開するなど、市民が自ら「住みやすさ・住むことで得られるメリット」を創出できる環境をつくるのが大切です。

<私たちのアイデア>

- さまざまな方法で若者をはじめ市民の声を聞く。（例：市民全体を対象に今ある物をさらに良くするためのアンケートを実施、大学生・高校生などの意見や考えを聞くなど）
- 自治会が新住民を積極的に支援するよう働きかける。（例：ゴミ出しの方法を教えるなど）
- 市民アイデアを具体化し、住みやすさを創出するため資金面やソフト面で支援する。
- 地域おこし協力隊の制度を活用し、外部人材とともに甲府市の住みやすさをづくり、アピールする。（例：富士吉田市）

『歴史・文化』グループからの提言

私たちからの提言

歴史と文化を深く知り伝え、郷土愛ある人々が集い合う 豊かな甲府市をつくる

【私たちの想い】

- 私たちが暮らす甲府市は、武田氏以来の伝統、織豊期に築かれた甲府城、江戸の文化に影響された豊かな町人文化、水晶や印伝など地域の特色を生かした伝統工芸、長い歴史と甲府の人々の営為に裏打ちされた、魅力と個性を築いてきました。また、自然豊かな四季折々の風景が味わえ、特に夕日が映えて山々が紫にかすむ光景は見るものを感動させ、澄み切った川を隔て山々をみる景色はまさに山紫水明の地にふさわしいといえます。さらに、景色に劣らずそこで暮らす人々は結びつきのある居心地のよい人情にあふれ、愛着の持てるまちでもあります。
- しかし、バブル景気が終焉を迎えた 1990 年代に入ると甲府市中心街の状況は一変して商店街は活気を失っていきました。その要因として、公共交通機関のスピードアップ化によるストロー化現象が顕著に表れ始めたことや、核家族化による世代間の交わり不足から地域の伝承などを詳しく知る機会を失い、郷土の歴史を知らないために若年層が地域への関心や誇りを持ってない状況にあることなどがあげられ、非常に難しい局面にあると言えます。
- 一方で、甲府市には都会には無い自然が、いつでも手軽に楽しめる環境にあり、名所旧跡も歩いて回れる範囲に沢山点在しています。また、歴史と伝統のある地場産業も時代に合わせて継承されているなど、自然・歴史・地場産業の豊かな資源を擁しています。
- このため、今後、郷土の歴史・文化・地場産業をよく知る教育を地域・学校等で教えていくことで自分の住んでいる甲府市のすばらしさを改めて実感することにより、郷土愛を育み、都会の人々に魅力ある甲府市を、行政及び市民がより良く発信し続けることで、甲府に住んでみたいと思うまち、甲府に多くの人々が集うまちをつくっていくことを提案します。

<甲府市の強み>

- 感動するほどの豊かな自然に根付いた甲府特有の歴史がある
- 今なお人々を魅了する武田信玄公をはじめ、活用できる歴史的資源が多い
- 善光寺をはじめとする神社仏閣が多い
- 県庁所在地のため、利用できる文化施設が多い
- あわびの煮貝、ほうとう、甲府鳥もつ煮などの食文化が豊か
- 水晶、ワインなど世界に発信できる資源が多い
- 住み慣れたまちに愛着をもっている人が多く、人と人との結びつきが強い

【甲府市の強みを活かした、歴史・文化に関する提言】

テーマ1 どんなに時代が変わっても、 甲府の歴史と伝統は私たちが受け繋ぐ

★歴史と伝統を大切にす誇りある甲府人の育成

- 甲府の歴史は、住んでいる私たちだけに限らず、日本全体の宝物として、誇ることができます。甲府市のいたるところで、往時の雰囲気を楽しむことができ、甲府市中心部では、甲府城をはじめ、その周辺の江戸時代に繁栄した城下町と華やかな町人文化の息づかいを今でも感じることができます。

縄文時代・弥生時代の遺跡、曾根丘陵の古墳群。律令時代、東征したヤマトタケルノミコトが立ち寄った酒折宮。宗教色が濃かった平安時代の金峰山山岳信仰。甲斐源氏の流れを受け継ぐ武田氏の時代。信玄の父・信虎が居館を石和から移してもうすぐ500年（2019年に500周年）。



古墳群（出典：甲府市HP）



酒折宮

柳町大神祭、天津司の舞、信玄公祭りなどの伝統的な祭り。弘法大師が開湯したと言われる湯村温泉郷。文豪太宰治が愛したシルクハットを逆さにしたような街甲府。昇仙峡を開発した長田円右衛門。漂泊の歌人山崎方代。多くの死者を出した甲府空襲、そこから見事に復興を果たした先人の努力・・・甲府市は、まさに「歴史都市」と言い代えることができるでしょう。



甲斐善光寺（出典：甲府市HP）



信玄公祭り（出典：甲府市HP）

- ところで、住んでいる私たちはこの歴史の素晴らしさに気づいているでしょうか。残念ながら、そのような人は多くありません。もっと自分たちの住むまちの歴史を知り、その素晴らしさに気づき、過去の歴史に学ぶことが必要です。歴史を知り学ぶことは、未来への生き方を考えることにつながるからです。
- 甲府の歴史はこれからも脈々と続いていきます。どんなに時代が変わっても、甲府の歴史と伝統を受け繋ぐことができる人材の育成、後世に甲府の歴史を語れる甲府人の育成をすすめていくことを提言します。
- 学校教育では、中学年で地域の歴史を部分的に学ぶものの、高学年では、日本全体の歴史を学習するため、郷土の歴史を学ぶことはほとんどありません。そこで、まず市民に幅広く甲府の歴史を伝える市民教育の機会が必要です。大人も子どもも、自ら興味をもって調べることができるようなハード面、ソフト面の構築が必要だと考えます。甲府の歴史を身近に感じさせ、興味関心をもたせることが大切です。市民教育を進めるために、行政が中心となり、さまざまな団体（NPO 法人、任意団体）および市民一人ひとりが力を合わせる必要があると考えます。

<私たちのアイデア>

- 市制 100 年の記念事業で発刊された冊子の復刊
- 上記冊子をアニメ化して小中学校に配布するとともに、甲府市 HP で閲覧できるようにする
- 小学校での出前授業の実施
- 親子で市内の歴史をめぐる市民遠足やフットパス・オリエンテーリングの開催
- 若年層が歴史に関心をもつような歴史に基づくアニメーションの作成と、twitter、ブログ、mixi などの SNS ネットワークを活用した広報アプローチ



信玄公像



藤村記念館

テーマ2 危機的・衰退化している地場産業を

市民全体で盛り上げよう

★地場産業を愛する甲府市民に

- 甲府の北にある金峰山から水晶が発掘され、江戸時代に京都から玉造り職人が来県しその技術が広められました。その後も水晶研磨のみならず、宝飾品の加工技術により今日の「宝石の街」を維持しています。しかし、昨今では、アジア諸国の研磨技術が高くなり、人件費の差もあり、多くの仕事がアジアに流れていっています。そして山梨での水晶の採掘は厳しく規制されて、水晶の産業は衰退の一途を辿っています。
- 現在では宝飾関係のターゲットは海外向けが主で、加工技術は海外ブランドから定評があるようですが、宝飾品や水晶工芸は高価であり非日常的な産物であり、市民に親しまれるものとはなっていません。研磨職人も高齢化し、後継者も殆ど育っていないのが現状です。甲府市民は、国際的に有名な地元ブランドの宝飾品、そのもととなった水晶に対する関心を忘れてはいないでしょうか。水晶に親しみ、水晶の加工技術を理解し、技術の応用となる宝飾品の目利きを育て、甲府の研磨技術の国際的な展開を知ることからはじめてみてはどうでしょうか。キラキラした日常が待っているような気がしてなりません。
- 革細工は数々ありますが、鹿革を使用した印伝は、「甲州印伝」と地名をつけての知名度が市民権を得ているのではないのでしょうか。「甲州印伝」といえばトンボや小桜の柄模様が連想され、柄には縁起担ぎの思いがこもっているようです。水晶がパワーストーンとして人気があるよう、印伝柄も縁起担ぎで様々なものを持っていただくことはできないでしょうか。まずは親しむ、そして私の印伝柄を作りたくなったら工房へ・・・次世代を育てるためにいかがでしょうか。親しみがわくと愛が生まれます。甲府を愛する市民が生まれます。
- 甲府の食文化をみてみると、甲府市民でも甲府のワイン銘柄を知らない人がたくさんいます。また、甲府でなければ食べられないもの、煮貝、ほうとう、甲府鳥もつ煮などの郷土料理・名産品も、甲府市以外の人の方がその豊かさをわかっているのかもしれない。私たち自身が、もっともっと探してみましよう。

<私たちのアイディア>

- 水晶の採掘を再開し、地元産の水晶を地元の職人が磨く文化を復活させて地場産業を活性化する
- 水晶を身近に感じられる参加・体験型イベント
- 甲府市の花であるなでしこを印伝模様にする
- 広報誌の柄や卒業証書に印伝柄を取り入れる
- 小学生の学習課題として一度は印伝博物館を見学に行く
- 甲府の豊かな食文化を再発見するイベント



水晶・印伝

テーマ3 市内外の人が集うことのできる甲府づくり

★『集う』…無尽（≡相互扶助）の独特な習慣を持つ甲府の人にとっての…

- 甲府のご当地ソング「甲州よっちゃばれ音頭」の歌詞にあるように、甲府の人はよっちゃばるのが好きです。また、「武田節」の歌詞にあるように、甲府の人は思いやり、連帯感が強いといえます。
- 「思いやり感、連帯感の強い」甲府の人が集えば（例：『甲州軍団』）大きな力となります。県外から来た人には排他的な印象があることをよく自覚し、見栄を張らずに、うちとけてもらえるよう、こちらから気安いアクションを起こしましょう。
- インターネットが普及した現在、個人の関心や好き嫌いが細分化され、小規模で多数存在し、密度の濃いコミュニティとなっています。世界的なファンタジスタ「中田英寿さん」が甲府の出身者であるように、それぞれのコミュニティが目標を高くもち、「日本一」や「世界のトップ」を目指しましょう。また、それぞれのコミュニティが「甲府」という共通性で繋がりがあい、戦国時代の『甲州軍団出陣』のような、もっともっと大きな円をつくりましょう。
- 人と人とが集うことは、楽しいんだ！明日への活力になるんだ！未来への希望につながるんだ！と実感してもらうことが大事です。

<私たちのアイディア>

- 空き店舗・ストリートなど街中を活用したよっちゃばるコミュニティづくり
（無尽仲間、趣味の会、ヴァンフォーレ甲府などのサポーター、行きつけの飲食店の客仲間、学校・地域・職場・ボランティア活動での集まりなど）
- インターネットによるリアルな集いへ
（甲府市限定品の配布やイベント企画の増加など、魅力づくりを行う中で、SNS（Facebook、mixi、twitter、LINE など）広報活動による集客効果を活用する）

『自然・環境』グループからの提言

私たちからの提言

甲府市は豊かな自然で「住む人」・「来る人」に幸せを提供します。

【私たちの想い】

- ・私たちが暮らす甲府市は、四方を山に囲まれ、「昇仙峡」や「武田の杜」をはじめとした自然の景観が美しく、夜景も綺麗で、多くの市民が住みやすいと感じる自然・環境に恵まれている地域です。
- ・しかし、甲府市でも少子・高齢化の傾向により人口は減り続け、今後も、その傾向が続けば、この自然・環境に恵まれた甲府市の郷土も、守れなくなってしまいます。
- ・人口の減少や流出を抑えるためには、甲府市への移住者や雇用を増やす必要があります。
- ・甲府市に住み続けたくなり、移住したくなり、会社を置きたくなるように、魅力的で愛すべき地域にするためには、次のような甲府市の自然・環境の“強み”を活かし、伸ばし、内外の人々に伝える努力をしていく必要があります。

<甲府市の自然・環境の“強み”>

- ①自然を身近に感じる景観（360度山に囲まれ、どこからでも富士山が見える等）
- ②「自然」と「都市」の両方を享受できる（都会の便利さと自然の豊かさ）
- ③自然環境と教育環境の両方に恵まれている（自然が豊かだが田舎すぎない）
- ④自然に恵まれたスポーツ環境がある（スポーツ施設と晴天に恵まれている）
- ⑤自然災害が少なく晴れが多い恵まれた気候（台風や地震等の被害が少ない）
- ⑥夜の自然が楽しめる（夜景と星空が美しい）
- ⑦多種多様な農の恵み（四季がハッキリし、昼夜の寒暖差や土地の高低差が育む）
- ⑧水が美味しい（水道水が美味しく、ミネラルウォーターがいらぬ）
- ⑨大きな太陽光発電所があるエコの町（全国第2位の規模の太陽光発電所がある）
- ⑩自然と暮らしてきた文化がある（災害時に助け合う互助・共助の文化もある）

- ・このため、私たちの甲府市の自然・環境の取り組みの方向性を、「**甲府市は、豊かな自然で、『住む人』『来る人』に幸せを提供します。**」とし、次ページ以下のテーマに沿って、市の政策や市民の取り組みを進めていくべきものと考えます。

- ・なお、この提言の検討に当たっては、以下の甲府市の既存の施策も参考にしました。

○子育て環境⇒「甲府市子供・子育て支援計画」（2014年12月 案段階で発表）

○豊かで新鮮な「食」⇒「第2次甲府市食育推進計画」（2014年3月）

○「エコ活動」～日本一おいしい水～⇒「第2次甲府市環境基本計画」（2013年3月）

○スポーツ環境⇒「甲府市スポーツ推進計画」（2014年3月 教育委員会策定）

テーマ1 自然環境をいかして「住む人」を幸せにするまち

(1)「住みやすさ」の提供

私たちのグループでは、このワークショップの中で、何度も繰り返し、「甲府は住みやすいまちだ」という声が出ました。住みやすさの理由は沢山ある中でも、これがあるから、住みたくなる、住み続けたいものって何だろうなあ？と考えて、次世代を育む「子育て環境」と人間が生きていく基本である「食」に恵まれていることが、甲府市の魅力であり、この魅力を、もっともっと伸ばしていきたいと思いました。

○子育て環境日本一を目指す

甲府は、東京にも近い都市でありながら、身近な自然環境に恵まれています。子どもの数も少な過ぎず、学校や文化施設などの教育環境にも恵まれ、それでいて自然にふれ、自然の中でのびのびと遊びまわられる魅力的な子育て環境を、これからも守り、伸ばしていきます。

⇒「**現有資産**」の更なる活用

※**太字が現有資産**

- ・**広くて安全で緑豊かな校庭**を教育に活かし、維持する
- ・「森の学校」など**豊かな自然**の中での教育を推進する
- ・小さいうちから**自然の中で遊べる環境づくり**を推進する
- ・**待機児童がゼロ**で、**自然に恵まれ、家と学校や自然が至近距離である、ゆったりとした教育環境**を活用する
- ・自然を通じて**世代間のつながり**を促す教育を進める
(高齢者が子供に、自然との付き合い方を教える)

★これらの甲府の「恵まれた子育て環境」をもっとアピールし、伸ばしていく

○豊かで新鮮な「食」を楽しめるまち

昼夜の寒暖差が大きく、市内の土地に高低差があるところから、甲府には、多種多様で美味しい農産物が豊富にあり、しかも都市に近い農地から、新鮮な野菜がすぐに食卓に運ばれてきます。そんな甲府の「食」の魅力を、もっと知って、もっと楽しめるようにします。

⇒「**現有資産**」の更なる活用

- ・**至近距離にある農地**での農業体験を促進する
- ・「**地産地消給食**」のさらなる充実をはかる
地産地消の意義を広く知ってもらい浸透させる（フードマイレージ運動）
給食を食育の場の一つと位置づけ、豊かでゆったりとした時間とする
- ・「**地産地消料理教室**」を実施する（各地域「悠々館」活用）

★これらの甲府の「すぐれた特産物」をもっとアピールし、活用する

※「豊かで新鮮な「食」を楽しめるまち」の具体的な施策の事例紹介

「中学校給食における食べ残し削減」

残食量 平成22年 111g ⇒平成26年 47g (／人・食)

半分に以下に削減できた。

(主な施策) ★サーブ方式の変更(弁当式⇒食缶式)

(それを支える施策)

- ①民間の活用(民間運営の給食センター)
- ②統一献立・一括調達によるコスト効率化(限られた予算で、できるだけ良いものを)
- ③「献立委員会」による製造現場の意見の採用
- ④安全・安心・安定供給(大雪災害時でも速やかに供給、毎日セシウム測定等)

(2)「健康に過ごせる」まち

「健康は宝」という言葉がありますが、甲府は、そんな宝を、美味しく安全な水や、恵まれたスポーツ環境でサポートするまちです。どちらも、甲府の豊かな自然あってのものであり、この自然を守っていくための環境意識を、市民一人一人が持ち続けていく必要があります。

○エコ活動を通じて、日本一「水」がおいしいまちを目指す

美しい昇仙峡を水源とする甲府の水道水は、美味しいと評判です。この美味しい水を守るためには、その水源を守り、森林を守り、甲府の豊かな自然を守る心、すなわち環境意識を今後も培っていく必要があると考えます。

- ⇒・水源を守る「森林」を保護(食べ物や料理のおいしさにつながる)
- ・エコ教育(ゴミ分別・減ゴミ)の徹底(子供の教育から)
 - ・ゴミの分別等で地区ごとにムラがある環境意識を底上げする(地区ごとのコンテスト等)
 - ・食べ残しゼロ・減ゴミのキャンペーンを推進する
 - ・市民参加型のエコ活動を促進する

○スポーツ環境日本一と健康寿命の最大化

住んでいる場所のすぐ身近な場所にスポーツ施設や自然がある甲府は、日々の日常的なスポーツを快適にしやすい環境も備わっていると言えます。美味しい空気を吸いながら、体を動かす心地よさを味わいながら、いつのまにか健康寿命が延びていくまちを目指します。

- ⇒・参加しやすいスポーツ教室や参加型スポーツイベントを充実させる
- ・自然環境にアクセスしやすいインフラを整備する
 - ・歩きやすく、自転車が走りやすい道路づくりを進める
 - ・車に乗らず、「歩く」ことや「自転車に乗る」運動を推進する

テーマ2 自然環境をいかして「来る人」に幸せをもたらすまち

(1) 360度山に囲まれた自然のまちづくり

甲府に「来る人」が、まず気付くのは、360度ぐると山に囲まれた甲府の自然景観です。それは美しいだけでなく、自然を身近に感じさせ、実際に台風などの自然災害を防いでくれ、安心感をもたらしてくれます。そんな甲府市民の原風景であるユニークな自然景観を大事にし、身近な自然をもっと楽しめるようにします。

○「360度山に囲まれた自然景観」を守り育てる

甲府のまちのどこにいても、ふと目を上げると山並みが見える。そんな甲府市の自然景観ですが、もう少しあの建物が低かったら、もう少し自然と調和した町並みだったら…、そういう少し残念なところを改善して、より美しく、より印象的に、甲府の景観を守り育てます。

- ⇒・建物を低く制限する
- ・高い建物を減らすよう誘導する
 - ・特定の眺望スポット（舞鶴城公園等）を定め、そこからの景観を守り、改善する（高さ制限等の規制）
 - ・建物の間や道路の先に、山が見えるような景観を守り育てる
 - ・寂びれた感じがある市街地などの景観を改善する
 - ・市街地の再開発計画において、周囲の自然景観と調和させる方針で景観を整備したり、規制したりする

○身近な自然を楽しみやすい環境をつくる

甲府では、まちの近くに山や川の自然があり、遊歩道やハイキングコースなども整備され、いつでもすぐに豊かな自然が楽しめます。でも、どこにあるかわからない、車をとめるところがない、といった点を改善すれば、もっと自然が楽しめるまちになります。

- ⇒・自然を楽しめる施設や森で遊べる場所をつくる
- ・ハイキングコースでの距離表示など、インフラを整備する
 - ・ハイキングコースの出入口に駐車場を整備したり、既存駐車場を利用できるようにする
 - ・バスの路線や本数を工夫して、自然を楽しみやすくする
 - ・温泉を終点するなど、魅力的なウォーキングコースを設定する



富士山と甲府の街並み

（２）見せ方楽しみ方の工夫で甲府ブランドの自然を提供

これまで挙げたように、甲府の自然を守り、改善し、利用できる環境を整備していくことも大事ですが、それだけでなく、その素晴らしさを内外に伝え、アピールし、甲府の自然を最大限引き出して、「来る人」により多くの幸せをもたらすよう、見せ方や楽しみ方を工夫していくことも必要です。

○「甲府の素晴らしさ」を伝える

まだまだ知られていない甲府の自然の素晴らしさを、効果的に伝えるとともに、「自然災害に強い」など、甲府の自然環境が持つ価値も伝え、甲府ブランドを向上させていきます。

- ⇒ ・ 絶景ポイント、夜景スポットなどを効果的に伝える
- ・ 「自然災害に強い」など甲府の意外な自然をアピールする

○甲府の自然の見せ方、楽しみ方を工夫する

私たちは、まだまだ、甲府の自然の楽しみ方を知らないままなのかもしれません。自然の楽しみ方は多種多様で、組み合わせ方でも新たな楽しみが生まれてきます。いろんな切り口から、甲府の自然の見せ方、楽しみ方を工夫して、「来る人」が、より楽しめるようにしていきます。

- ⇒ ・ 甲府ならではの農業体験を提供する（農作業、ワイン、料理等）
- ・ 温泉の楽しみ方のPRを工夫する（スタンプラリー、ランステ等）
- ・ 甲府でのウォーキングなど、自然の楽しみ方を教える
- ・ 信玄公の治水術など歴史文化の切り口から自然を見せる
- ・ 愛宕山の夜景を楽しめるように、駐車場を開放したり、温泉旅館等から送迎バスを運行する



昇仙峡（出典：甲府市観光協会 HP）



甲府盆地の夜景（出典：甲府市 HP）

【提言実現のための全体的なポイント】

以上の提言内容の実現のためには、甲府市や市民が、政策や取り組みに当たって、十分に以下のポイントを踏まえることが必要だと考えます。

①市民総出で活動する

- ・「地」ブランドは、市民総出でPRしてつくる
- ・市民全員が「甲府市大使」となり、PRに必要なパンフレットを利用しやすくしたり、知識・情報を身につけやすくしたりする



武田菱丸

(出典：やまなし
観光推進機構HP)

②途中で進捗を検証・チェック・改善する仕組みをつくる

- ・甲府市の政策評価を、市民もしっかり知り、チェックするようにする
- ・ワークショップなど、市民参加の場を増やす
- ・このワークショップの提言の実現度をチェックするためのワークショップを、定期的を実施する。(市民のまちづくりへの参加意識も高まる。)

③近隣自治体と連携し、協働する

自然・環境については「甲府市」だけで考えてもダメです。「自然」・「環境」には自治体の区割りなんか関係ありません。甲府市だけで自然・環境を守れるでしょうか？自然・環境は、市町村の「壁」を乗り越える一番良いテーマです。各自治体が、いちばん連携しやすいものから始めましょう！

「国中環境共同宣言」 制定へ！

STEP①：誰もが共感できる「環境保護」から連携



STEP②：施設の統合や共同での出資によるシナジー効果がある「施策」づくり等を行う



「無駄の排除」と「最大効果」の両立！

最後に

「生活者目線」での市政を！

従来の「甲府市」の枠にとらわれず、「生活者」（「住む人」・「来る人」・「住みたい人」）を見据えた市政を期待します。市民とともに「誇れる街」を作りましょう！